

平成29年（2017年）はいかなる年か

「一白水星・丁(ひのと)・酉(とり)・山下火(さんげか)」

カナダ株式会社代表取締役社長 金田康男

カナダ(株)金田社長による恒例の今年の「いかなる年か」をご紹介します。

- 本年は「一白水星」が中宮に入り「一白水星」の象意が各方面に強い影響を与える年となる。
- 「一白水星」は、易の「坎」の卦より「一陽・二陰」の中間に位置し、陽気が発揮できない状態で「困難に陥り悩み深い」様を呈している。
- 四季に例えれば一年で最も寒く陰気の極る時期で、希望の春を待つための準備期間であり、耐え忍ぶという苦しい状態を表している。
- この星の象意は「困難の星」「悲しみの星」「苦勞の星」「忍耐の星」「水害の星」等とされている。
- 川の流れが変わるように時代の流れが変化する節目の年となる。
- 「一白水星」の年は不倫や金銭にまつわるスキャンダルが表面化する可能性がある。家庭を疎かにせず、大切にしなければならない年となる。
- 「五黄土星」(革命・破壊の星)が離宮(前厄)に「六白金星」(経営・大企業の星)が坎宮(本厄)に「七赤金星」(金融・財運の星)が坤宮(後厄)に回座するため世界経済は厳しい年となることが予想される。
- 「丁」は「火の弟」で「火気の陰気」を表し明るく見えても活気に欠ける状態にある。
- 「丁」は従来の主流の動きはなおも継続するも、新しい、または反対の動きも出てきて新旧の勢力が衝突することを表す。
- 「酉」は「金性の陰気」を意味し、成長のために一度「縮む・固まる」状態を表している。「酉」は新しい革命的な勢力が生まれつつあることを表す。

本年の社会・経済について

- 世界の社会や経済の流れ、時代が大きく変化していくことが考えられる。
- 政治も困難が付きまとうが未来に向けて忍耐強く、正しく諸問題に対処していくことが肝要となる。
- 経済状態は表向き景気が良さそうに見えるがカラ景気で経済が立ち直る時ではないため、金融界、経済界は低迷が続くことが予測される。
- 企業は営業成績の伸び悩みや運転資金の枯渇も心配され、全体的には厳しい状態が続くため忍耐強く懸命に対処すべき年となる。
- 株価は「申酉騒ぐ」という「酉年」であり高値相場の傾向と下げ相場の傾向も多く発生し不安定な年となるため株などの金融投資には難しい年となる。
- 「不景気・不況の星」といわれる「一白水星」の象意を受けて経済活動も活気がなく経営的には「耐え忍ぶ」年となり、「丁」の年でもあり将来のために地固め、準備の年と心得て経営することが望まれる。実力の伴わない投資や行動は凶となる。

- 「一白水星」は「中男・部下・使用人」を意味し、良いにつけ悪しきにつけ企業では部下や使用人の影響力が強まる年。経済が厳しい年だけに労務管理が難しい年となり、また、隠れていた部下の貢献や逆に不正や裏切りなどが表面化する年となる。
- 「一白水星」は「彗」の付くビジネスの商運が比較的良いと思われる。
- 高級品や高価なものはあまり売れず、大衆的なもの安価なものが売れる年となる。
- 「歳破」が「卯=東」に位置するため東に位置する国との関係や貿易が難しくなる可能性が強い。

◆本年は「水」の如く「清らか」に「柔軟」に「素直」に行動することが求められる。

◆本年の「恵方」は「壬（みずのえ）」・北北西となる。

本年の自然災害について

- 「一白水星」は「水」の象意であるため「水害」に、また、冬という象意もあるため「雪害」にも要注意の年となる。
「風」の象意である「四緑木星」と「澤」の象意である「七赤金星」が鬼門線にあるため、この易の年には過去数百年間に多くの風水害が発生しているので要注意。
- 「丁」は火気の性なので火事にも注意が必要。
- 「酉」は地中の溶融していた金属や鉱物が結晶を始めようとしている地気的作用を表しており地震に注意が必要となる。
- 納音（なっちゃん）は「山下火（さんげか）」のため火山の噴火や地震などにも警戒が必要となる。特に「山」を意味する「八白土星」が東に移ること、そして本年の「歳破」が「卯」の方角である真東に位置する事から東方に要注意となるため、近海の地震だけでなくチリ地震のように南米に発生した地震による津波にも注意が必要な年となる。

◆「一白水星・丁・酉・山下火」の年の災害

1657・1 明暦の大火

「丁・酉・山下火」の年

1717・5 東北地方地震・1777・8 伊豆大島噴火・1897・2 東北地方地震・

1897・7 草津白根山噴火・1897・8 宮城岩手地震・1957・10 伊豆大島三原山噴火・

1957・11 新島近海地震

*「易は 当たるも八卦・当たらぬも八卦」とご承知ください。

参考文献

運研

易経講和

干支の活学

マーフィの易占い

日本の自然災害

井上日宏氏

公田連太郎氏

安岡正篤氏

ジョセフ・マーフィ氏

国会資料編纂会